



平成30年12月3日

各 位

会社名 株式会社ディー・エル・イー  
代表者名 代表取締役 椎木 隆太  
(コード番号 3686 東証第1部)  
問合せ先 執行役員 高倉 喜仁  
(TEL 03-3221-3980)

(訂正)「平成28年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)」の一部訂正について

当社は、平成28年1月29日に開示いたしました「平成28年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)」の一部を訂正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 訂正の内容と理由

訂正の内容と理由につきましては、別途、本日(平成30年12月3日)付「過年度の有価証券報告書等及び決算短信等の訂正に関するお知らせ」にて開示しておりますのでご参照ください。

2. 訂正箇所

訂正箇所は\_\_\_\_\_線を付して表示しております。なお、訂正箇所が多数に及ぶことから訂正事項については、訂正後のみ全文を記載しております。

以上

(訂正後)



## 平成28年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年1月29日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ディー・エル・イー

コード番号 3686

URL <http://www.dle.jp/>

代表者(役職名) 代表取締役

(氏名) 椎木 隆太

問合せ先責任者(役職名) 取締役CFO兼経営戦略統括本部長

(氏名) 川島 崇

(TEL) 03-3221-3980

四半期報告書提出予定日 平成28年2月5日

配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無: 有

四半期決算説明会開催の有無: 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成28年6月期第2四半期の連結業績(平成27年7月1日～平成27年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年6月期第2四半期	985	-	△58	-	△61	-	△389	-
27年6月期第2四半期	-	-	-	-	-	-	-	-

(注) 包括利益 28年6月期第2四半期 △389百万円 (-%) 27年6月期第2四半期 -百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年6月期第2四半期	<u>△23.29</u>	-
27年6月期第2四半期	-	-

(注) 平成28年6月期第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成27年6月期第2四半期の数値及び対前年同四半期増減率については記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年6月期第2四半期	<u>2,438</u>	<u>587</u>	<u>24.1</u>
27年6月期	-	-	-

(参考) 自己資本 28年6月期第2四半期 586百万円 27年6月期 -百万円

(注) 平成28年6月期第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成27年6月期の数値は記載しておりません。

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年6月期	-	0.00	-	0.00	-
28年6月期	-	0.00	-	-	-
28年6月期(予想)	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

### 3. 平成28年6月期の連結業績予想(平成27年7月1日～平成28年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,919	-	233	-	208	-	139	-	8.38

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

2. 平成28年6月期第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、対前期増減率については記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	28年6月期2Q	16,768,200株	27年6月期	16,525,800株
② 期末自己株式数	28年6月期2Q	－株	27年6月期	－株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	28年6月期2Q	16,718,286株	27年6月期2Q	16,496,416株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社において判断したものであります。予想には様々な不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合がございますので、この業績予想に全面的に依拠しての投資等の判断を行うことは差し控えてくださいますようお願い申し上げます。なお、上記予想に関する事項は添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7
(参考) 個別業績の概要	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、底堅さのみられる個人消費に加え、輸出・生産の持ち直しにより企業部門に改善の兆しがみられるなど、緩やかな回復傾向が続いております。一方、米国の金融緩和策縮小による影響、欧州や中国をはじめとする新興国経済の先行きに対する懸念等、海外景気の下振れリスクとなっております。

当社グループを取り巻く環境においては、スマートフォンやタブレットPCなどのスマートデバイスの普及が世界規模で急速に拡大し、それに伴い、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）、動画配信サイト、ソーシャルゲーム、コミュニケーションアプリなどの新たなサービスの利用も引き続き拡大しております。

そのような環境変化は、人々のライフスタイルを、スマートデバイス等を使い、最適メディアを選択し、必要なときに必要な時間だけコンテンツを消費し、SNS等を使って、即時に情報や感動を共有するといった、メディア接触方法の多様化、コンテンツ視聴の短時間化、情報共有のリアルタイム化へと世界規模で変化させ、「スキマ時間に楽しめるショートコンテンツ」といった新たな付加価値へのニーズを急速に拡大させてきました。

そして、インターネット動画配信等の新興メディアの興隆で競争が激化するメディア業界においては、オリジナルコンテンツによる差別化の重要性が増してきております。

このような事業環境の中、当社では、視聴者や消費者等の多様化し変化の早い嗜好や価値観、旬な時事ネタ等を捉え、適時に対応することを強みとする、ファスト・エンタテインメント事業を展開し、インターネット時代にマッチしたオリジナルコンテンツを量産してまいりました。また、オリジナルコンテンツの多様化の一環として、新たに実写映画プロデューサーへの取り組みを開始いたしました。

また、前事業年度に取得した「TOKYO GIRLS COLLECTION」の商標権を積極的に展開し、ファッション・ビューティーに関する情報の発信源として日本のガールズカルチャーを世界に発信する取り組みをしてまいりました。

ソーシャル・コミュニケーション領域においては、IP（Intellectual Property：主にキャラクター等の著作権や商標権等の知的財産権）を開発・取得し、動画広告等のマーケティングサービス提供及びスマートフォン向けゲームアプリやメッセージングアプリ向けスタンプ等のデジタルコンテンツの企画開発・配信を行っております。

当第2四半期累計期間においては、IPの露出先の拡大や展開手法の多様化による、IP価値の成長に連動し、各サービスが順調に推移いたしました。特に「秘密結社 鷹の爪」においては、日本初のエンターテインメント型攻城戦ツアーとして国宝「松江城」を使った戦国時代の城攻めをリアルに体感できる「鷹の爪団のSHIROZEME」といったリアルイベントや、人気月刊マンガ雑誌でのマンガ連載開始など、従来のアニメーションから展開領域を拡大いたしました。また、「パンパカパンツ」においては、初のナショナルクライアントへの全国プロモーションサービスの提供、劇場公開作品の全国69館での上映、大手ショッピングモールへの販路拡大など展開領域を全国へと拡大いたしました。そして、「TOKYO GIRLS COLLECTION」においては、人気SNS上の公式動画配信サービスでの視聴者数が約100万人を達成するなど、当社保有IPの価値向上に取り組みました。また、中国女性向けファッション専門EC最大手のHifashion Group Inc.と業務提携をし、越境EC事業等による中国市場への展開を開始いたしました。

IPクリエイション領域においては、IPの新規開発及び映画・TV・ネットメディア等の映像コンテンツの企画開発・制作及び総合的なプロデュースを展開しております。

当第2四半期連結累計期間においては、各IPのTVシリーズ・WEBシリーズの継続により認知度向上及び世界観醸成に努めました。特に「秘密結社 鷹の爪」においては人気SNS事業者が運営するライブ配信プラットフォームにて、サービス公開時唯一のアニメコンテンツとして動画配信を開始、「パンパカパンツ」においては、初のテレビアニメシリーズの全国放送を開始するなど順調に推移いたしました。また、「珍遊記」などの実写映画プロデューサーを新たに開始するなど、コンテンツの多様化にも取り組みました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は985,274千円、経常損失は61,355千円、親会社株主に帰属する四半期純損失は389,345千円となっております。

なお、当社グループは、ファスト・エンタテインメント事業の単一セグメントであるため、セグメントごとの記載はしておりません。

## (2) 財政状態に関する説明

## ①資産、負債及び純資産の状況

## (資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は、1,598,447千円となりました。主な内訳は、現金及び預金593,612千円、受取手形及び売掛金369,584千円、仕掛品253,319千円であります。

また、固定資産は、839,663千円となりました。主な内訳は、商標権718,464千円であります。

以上の結果、総資産は2,438,111千円となりました。

## (負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は、1,177,581千円となりました。主な内訳は、買掛金263,434千円、1年内返済予定の長期借入金214,618千円、前受金289,299千円であります。

また、固定負債は673,433千円となりました。内訳は長期借入金673,433千円であります。

以上の結果、負債合計は1,851,014千円となりました。

## (純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は587,096千円となりました。主な内訳は、資本金750,625千円、資本剰余金527,945千円及び利益剰余金△691,791千円であります。

## ②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、593,612千円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とその要因は次のとおりであります。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動による資金の減少は、9,769千円となりました。これは主に、税金等調整前四半期純損失の計上389,345千円、たな卸資産の増加115,509千円及び出資金の増加299,963千円による減少によるものであります。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動による資金の減少は、762,842千円となりました。これは主に、無形固定資産の取得による支出758,544千円による減少によるものであります。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動による資金の増加は、818,935千円となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出44,783千円による減少があったものの、長期借入れによる収入850,000千円による増加によるものであります。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年6月期の業績予想につきましては、概ね当初の見込みどおりに推移しており、平成27年11月13日に公表しました業績予想に変更はございません。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

## (1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

## (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
資産の部	
流動資産	
現金及び預金	593,612
受取手形及び売掛金	369,584
商品及び製品	32,459
仕掛品	253,319
その他	349,470
流動資産合計	1,598,447
固定資産	
無形固定資産	
商標権	718,464
無形固定資産合計	718,464
投資その他の資産	
その他	121,198
投資その他の資産合計	121,198
固定資産合計	839,663
資産合計	2,438,111
負債の部	
流動負債	
買掛金	263,434
1年内返済予定の長期借入金	214,618
前受金	289,299
その他	410,229
流動負債合計	1,177,581
固定負債	
長期借入金	673,433
固定負債合計	673,433
負債合計	1,851,014
純資産の部	
株主資本	
資本金	750,625
資本剰余金	527,945
利益剰余金	△691,791
株主資本合計	586,778
新株予約権	318
純資産合計	587,096
負債純資産合計	2,438,111

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(第2四半期連結累計期間)

(四半期連結損益計算書)

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年7月1日 至平成27年12月31日)
売上高	985,274
売上原価	667,089
売上総利益	318,184
販売費及び一般管理費	376,610
営業損失(△)	△58,425
営業外収益	
受取利息	57
その他	365
営業外収益合計	422
営業外費用	
支払利息	1,687
為替差損	963
その他	700
営業外費用合計	3,351
経常損失(△)	△61,355
特別損失	
減損損失	327,990
特別損失合計	327,990
税金等調整前四半期純損失(△)	△389,345
法人税、住民税及び事業税	0
法人税等合計	0
四半期純損失(△)	△389,345
非支配株主に帰属する四半期純利益	—
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△389,345

(第2四半期連結累計期間)

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年7月1日 至平成27年12月31日)
四半期純損失(△)	△389,345
四半期包括利益	△389,345
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	△389,345
非支配株主に係る四半期包括利益	—



## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年7月1日 至平成27年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純損失(△)	△389,345
減価償却費	38,242
受取利息	△57
支払利息	1,687
為替差損益(△は益)	867
減損損失	327,990
売上債権の増減額(△は増加)	51,008
たな卸資産の増減額(△は増加)	△115,509
出資金の増減額(△は増加)	△299,963
仕入債務の増減額(△は減少)	102,722
その他	338,424
小計	56,068
利息及び配当金の受取額	57
利息の支払額	△1,685
法人税等の支払額	△64,208
営業活動によるキャッシュ・フロー	△9,769
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△788
無形固定資産の取得による支出	△758,544
関係会社株式の取得による支出	△2,660
敷金及び保証金の差入による支出	△849
投資活動によるキャッシュ・フロー	△762,842
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入れによる収入	850,000
長期借入金の返済による支出	△44,783
株式の発行による収入	13,399
新株予約権の発行による収入	318
財務活動によるキャッシュ・フロー	818,935
現金及び現金同等物に係る換算差額	△867
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	45,456
現金及び現金同等物の期首残高	548,155
現金及び現金同等物の四半期末残高	593,612

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社グループは、ファスト・エンタテインメント事業の単一セグメントのため、記載を省略しております。

(参考) 個別業績の概要

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成28年6月期第2四半期の業績(平成27年7月1日～平成27年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年6月期第2四半期	986	51.2	△28	＝	△31	＝	△359	＝
27年6月期第2四半期	652	△16.0	△82	＝	△73	＝	△73	＝

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年6月期第2四半期	△21.50	＝
27年6月期第2四半期	△4.47	＝

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年6月期第2四半期	2,471	617	25.0
27年6月期	2,234	962	43.1

(参考) 自己資本 28年6月期第2四半期 616百万円 27年6月期 962百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年6月期	—	0.00	—	0.00	0.00
28年6月期	—	0.00	—	—	—
28年6月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

## 3. 平成28年6月期の業績予想(平成27年7月1日～平成28年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,919	93.1	233	＝	208	＝	139	＝	8.38

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

## ※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無  
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無  
 ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	28年6月期2Q	16,768,200株	27年6月期	16,525,800株
② 期末自己株式数	28年6月期2Q	—株	27年6月期	—株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	28年6月期2Q	16,718,286株	27年6月期2Q	16,496,416株

## ※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビューの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

## ※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社において判断したものであります。予想には様々な不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合がございますので、この業績予想に全面的に依拠しての投資等の判断を行うことは差し控えてくださいますようお願い申し上げます。なお、上記予想に関する事項は添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。